

2012年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	総合政策学部	身分	准教授
氏名	篠木 幹子		
NAME	Mikiko Shinoki		

1. 研究課題

(和文) 社会的ジレンマ状況の認知に関する測定方法の検討

(英文) The Study of the measuring method about the consciousness of social dilemma

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度)

(和文)

環境問題はしばしば社会的ジレンマとして捉えられる。ただし、それは研究者の視点からみて、社会的ジレンマであると仮定されてきたにすぎない。本来であれば、当事者の視点からみて環境問題は社会的ジレンマであると定義される必要があり、その点が了承されてはじめて、解決策のあり方は意味をもつ。本研究では、行為者の視点を含めた社会的ジレンマの了解の問題を出発点にし、行為者はごみ問題を社会的ジレンマとして「仮説的に／事実として」捉えているのかという課題を設定する。そして、仙台市、名古屋市、水俣市、釜石市でおこなったごみ問題に関する調査票調査のデータを用いて検討を行った。分析の結果、次のことが明らかになった。(1) ほとんどの住民ごみ問題が社会的ジレンマの特徴を備えていることを(仮説的に)認めている。(2) 制度で決められているごみ分別行動の多くには8割程度の人が協力し、自発的なごみ減量行動の多くには5割程度の人が協力しており、ごみ問題を社会的ジレンマとして(仮説的に)了解していても、事実としては協力行動を行っている人が存在する。(3) ごみ問題を社会的ジレンマとして(仮説的に)捉えつつも、事実としてごみ減量行動を実行する人は、社会的ジレンマ状況から脱する可能性を示す価値観をどの市においても共通して強くもっていることが明らかになった。

(英文)

The environmental problem should be defined as a social dilemma from the individuals' perspective. The purpose of this paper is to examine how the experimental study on the social dilemma from the individuals' perspective is possible by using the data of the questionnaire survey conducted in Sendai, Nagoya, Minamata and Kamaishi.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）

【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）

【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）

【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）